

## 令和2年度第6回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和3年3月8日（月）

13時30分～17時00分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：島田委員長、青木副委員長、小川委員、  
加藤委員、金委員

※過半数の出席により委員会成立

### 1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 島田 福男

### 3 議事

(1) 議事録署名人選定 金委員

(2) 事前説明

(3) 令和3年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

①栗生の民俗をたずねる会

委員 まず、事業のアピールポイントのところに、後世に栗生の「知の財産」を受け継ぎたいと非常に印象的な言葉がある。それをもとに質問するが、この出版物を出版した後は、地域の小・中学校、コミュニティセンター、図書館への寄贈となっているが、寄贈の後についてはどのように考えているか。また、例えば、寄贈後にその出版物を見て、小・中学校、図書館等々地域の方達が、さらに栗生について探求してみたい、活動に参加したい等という方がいた場合、その方達の窓口、受け皿になるところがなければ続いていけないと思うため、そういったところも含めて考えているのかというところをお聞きしたい。また、もう1点、予算の部分の支出で、印刷費が150部で18万円のオンデマンドカラー印刷とあるが、どんなイメージか。

説明者 まず、寄贈後についてだが、子どもも大人も興味を持っていただけたら、一度発表会をしてみたいと考えており、これは何年も前から、私達が考えてきたことである。先ほど見ていただいた資料は、松島町の様子だが、多分このようなイメージのものができるのでないかということで、何年か前に企画したこともあった。コロナが収束したら、私達はコミュニティセンターを中心に活動しているため、そちらの舞台を使用させていただきたいと思っている。その中から習ってみたい、歌ってみたいという方が現れることを期待し、その時には拠点のコミュニティセンターで受け皿には私になると規約で決めている。今までにもコミュニティセンターで、無料の貸し出しを受けながら活動を続けてきた場面もあるため、そちらの方の調整もしながら、実際に体験をしていただけるような場を現実に持ちたい。次に、印刷費についてだが、私共は素

人のため、どんな予算立てにしたらいいかということで、現在私達のメンバーに入っている PTA の方がプロの印刷屋であるため、その方を通じて、どのような形が一番効果的で廉価で済むかということを相談したところ、動画を撮影したものの中から写真を切り取り、それを埋め込む形でオンデマンドの印刷はどうかということで話を受けた。正直なところ、その提案に対して、私も専門ではないためこれ以上は申し上げられないが、その方は個人的には今 PTA 会長をやっている方のため、非常にそういう面では協力的に見てくださっているのかなということで、それをもとに予算を立てた。

委員 今日の話伺い、栗生流を初めて知った状況だが、会は平成 18 年から活動していて、現在会員は 9 名ということで、メンバーはほぼ初めからこれまで変わらない皆さんか。それとも少し新しい方が入っているのか。そういった状況はいかがか。

説明者 最初は、現在の 5~7 人位で始めた。その途中、18 年~22 年位までは、最初は正直なところ地域歩きの会であったが、そのうちにこの栗生流という存在を知り、どんな資料が残っているのかというのを尋ねていくうちに、これだったらあの方が持っているかもしれないという方が何人かおり、その方達に会合に参加していただく等、会員としてではないが、20 人位までは色々な方達に関わっていただいた。実際にその方達から寄贈していただいた写真や音源、実際の物品等、今回は役に立てさせていただきたいと思っている。ただ、現在のところは震災等を挟み、このメンバーが残っているという現状である。

委員 テーマや文化歴史に関心のある方は、その近くにお住まいでなくてもいると思うため、これまでの活動の中で、例えば、ブログやホームページ等そういったものの活用はしているか。

説明者 現在のところはない。

委員 皆さんで会合を開き、調べてその関心のある協力者の皆さんで共有というようなそういう状況で、本を作るということが、会としての初めての発信ということか。新聞の取材を受けたことはあるようだが、独自に発信をするということは、この機会に初めてという理解でよろしいか。

説明者 これまでは、集まっておじいさま方のそういう話を聞き、私がまとめるというような形で細々続けてきたというのが、本当に正直なところである。

委員 恐らくとても大事な情報や、地域の知らない様々な情報というのが、今に繋がってくるということでたくさんあると思うため、何かそういったものを、本等のもので発信して、作って終わりというよりは、それをどう活かすか、そこから新たな繋がりをどう作っていくかということが大事と思う。その辺りが編集制作にも上手く活かせるよう、何かそういった内容、編集の部分で作っていけると良いのではないかと思います。あまり他の団体と連携するといった繋がりはないか。

説明者 ない。60 代は私だけで、もう 1 人は 70 代、あとは皆さん 80 代で 90 近い方ばかりである。本当に記録をその場その場で溜めてきただけである。今がデッドラインと思いい、ここからそういうものに興味を持っていただくためには、今までのような書籍だけでは、若い方達の興味を引けないと思っている。実際に、最後に行われた場面が平

成 22 年で、私達の撮影できた最後である。その 22 年のものをもとにして、歌いの練習だけは続けていたため、その歌いの練習 CD 等も出しながら、実際にどこが違うと  
いったことや、どういうところが面白いということまで編集をし直して、できれば中  
学生や高校生に受け継いでいただけるような、そんな魅力的な資料に仕上げていき  
たいと考えている。

委員 1 点質問である。栗生地区の独特な歴史を伝え、地域の愛着を深めていくことはす  
ごく素晴らしいと思うが、予算の支出で、印刷屋が PTA の方ということだが、その出  
来上がったものを発送するために 75,000 円となっているが、発送するよりも、年配の  
方が多いということかもしれないが、近隣の小・中学校公民館等であれば、できれば  
直接持って行き、顔と顔が見えることの方が効果があるのではないかと思う。

説明者 私もそう思う。私自身学校に勤めていて、なかなか今は学校を訪問することが難し  
いため、500 円の郵便局のレターパックに入れるという前提で、単純に掛け算したも  
のである。ただ、できれば、私がこのようにプレゼンテーションして、伝えながら、手  
渡しできることが最良と思う。

## ②白沢カルデラプロジェクト実行委員会

委員 地層に関して大変深く勉強されているということがよく分かった。地層というのも  
結構マニアがいるらしく、好きな人には堪らないものらしいが、2 点確認したい。事業  
の活動スケジュールのところ、白沢五山コース等いくつかコースがあるが、このコ  
ースというのは既にあるものか。

説明者 現実としては、白沢五山は既に山歩きの人達はかなり知っている。また、蕃山、  
権現山、この辺にはもう道路がある。ただ、そこに行って、露頭を探し、地層が見える  
ところを探そうでないかというのが私達のコンテンツである。

委員 これは基本的に公道と考えてよろしいか。

説明者 外輪山を歩こう会ということで設定していこうと思っている。

委員 もう 1 点、事業の広報の方法として、チラシの作成配布ということで 3 万円支出に  
計上されているが、これは何部ぐらい作ってどこに配布するか、大体予定は決まっ  
ているのか。

説明者 特には決めていない。山歩き等そういった時にチラシを作り、市民センターにお  
いてばらまくことや、老人会の方からも声を掛けられているため、老人会を誘って、  
やるときにこういったチラシを配りたいということで書いた。

委員 せっかく東北大学の先生等も入っているため、そういったところの学生等恐らく地  
質もかなり詳しいと思うため、声掛けしてみても面白いのではないかと思う。

説明者 先生からよく言われているのは、地元の方が協力してくれるため、学生が現場に行  
けず困っているということである。ぜひ道の開発やそういったものを手がけてくれと  
言われている。

委員 ぜひ期待している。

委員 この地域は本当に地域資源がすごいと思う。恐らく一生研究し尽せないのではないか  
と思うが、2 点質問である。1 点目は、連合町内会との連携事業として取り組むとのこ

とで、結構地域として広いが、どこの連合町内会か。

説明者 旧宮城町の町内会である。これから声掛けをする。一応、上愛子、熊ヶ根や大倉等、あの辺のところに声を掛けたところ乗ってきた。そういう面で望みはあるが、これからはさらに作並等にも声掛けしてこういう名所をぜひ設定したいと考えている。

委員 もう1つは、予算についてお聞きしたい。支出の部についてだが、今のお話にもあったが、支出の書き方が大ざっぱすぎて、私達としても少し判断しづらいところである。もう少し細かいところまで明記していただくと、こちらとしても分かりやすい。

説明者 そういった面では、私、随分鉛筆舐めて苦労したというのが本音である。30万円位は必要かなと。そういうためには、何に使いたいかという、やはり講師を招き、講師料を払わなければいけない等、そういう面で、数字を作った。

委員 すごく面白そうな場所だと改めて感心していた。体制のことについて、申請書では、今年の2月20日に設立し、今10名で活動しているとのことだが、名簿の方々ということか。

説明者 とりあえずこれでスタートしようというメンバーである。

委員 今後、色々と興味、関心のある方々と一緒に活動したいという方が増えた場合、大歓迎ということで、何か会費や会則について準備はしているか。

説明者 特に今のところは未だ準備していない。

委員 関心のある方で一緒に調査したい、一緒に歩いて調べてみたいという方は一定層、若い方もいると思うため、場所によっては色々な活動を、それぞれ子ども達の教育の場や遊びの場として全部でなくても部分的に色々と連携すると、楽しいプログラムもできるのでないかと思う。そういった連携は活動してみてもと思うが、現在の体制の部分について少し確認であった。3年後にはブラタモリでぜひ活躍してほしい。

説明者 ブラタモリまではいかないが、とりあえず頑張っていきたいと思う。

委員 そういった発信方法について、色々とマスコミも活用することを検討してほしい。確認だが、今年度は色々と調査や講座、成果報告会が大きい活動という理解でよろしいか。

説明者 その通りである。

委員 5月にある関山街道フォーラムの講演会については、どんな関係か教えてほしい。

説明者 とりあえず、我々でやってもそう簡単に人は集まらないと思い、関山街道フォーラムからお声掛けいただいた。そして、私がこういうお声掛けがあったと発したところ、特に回覧板を回した町内会から反応があった。

委員 ぜひ連携してより良い活動としてほしい。

委員 2つほど質問である。まずは、それぞれコースを設定して、実際にそこに行って調査をし、委員の方や学生が参加するということが、安全が担保されているのかどうか。万一のことも想定した上での計画か。万一の時にどういったバックアップをして、安全策をとるかというところをお聞きしたい。また、新型コロナ感染に対する具体的な対策、つまり調査の他に色々と講座も実施するとあるが、そうなった時の対応についてもどうなっているかと思った。安全管理の部分で2つ教えていただきたい。

説明者 そういった面で、これから取り組まざるを得ないと思っている。今のところは全然

まとまっていない。4月からの全体会で、まずは白沢登山を有志だけで集まって歩いてみようとなっている。そういう下準備は今取り組んでいるが、安全対策という面については、正直今のところ及んでいない。

### ③仙台市立町マイスクール児童館

委員 手づくり感溢れる素敵な発表であった。企画書のところにたくさん企画が載っていて、少し混乱しているところがあるため、2点ほど教えていただきたい。まず、児童館と調査団の関係性についてだが、児童館はマイスクール児童館ということで、指定管理での運営と思うが、その児童館での事業の部分と、この調査団の皆さん独自の部分というのが、どの辺で線引きされているか。特に、メンバーに子ども達がいる、企画段階で子ども達の声を聞くということはとても素晴らしいと思うが、事業を実施する方と参加する方が全く一緒でないかととれるため、マイスクール児童館に限らず色々な子ども達が参加できるような事業を実施してはどうか。また、それを主催する調査団大人メンバーの皆さんがどんな方が教えていただきたい。また、もう1つ予算について、講師謝金が非常に高額という印象を受けたが、子ども達自身に映像や取材等の表現活動を学んでもらうための講師謝金なのか、それとも先ほどの調査団の大人の皆さんが小冊子をまとめるために必要な講師謝金なのか、それとも広く色々な方が一般的に参加できる取材活動や執筆活動のノウハウの講座なのか、この講師謝金16万円が結構な割合を占めるなど思ったため、少し教えていただければと思う。

説明者 まず、児童館と調査団の関係について、もともとの始まりが、児童館の中で出てきた声を拾っているため、今年度来年度は、立町マイスクール児童館の私達スタッフと子ども達を中心に始めていこうかと思いついた企画である。今回まちづくり活動助成金の募集要項を見てから、町の皆さんと一緒にやっての方がもっと中身が充実して良い内容になると思ったため、児童館主催ではあるが、地域の皆さんに実際募集をかけるような形で、子ども達と一緒にこんな活動をしませんかという活動を広く呼びかけて参加を募ろうと思っていた。

委員 活動場所は児童館だけに限らず別の場所を借りたり、そこに児童館に登録している児童も参加するということか。

説明者 今のところコロナの影響もあるため、児童館だけの活動は難しいと思っている。メディアテーク等の会場も借り、近くの西公園等でも活動することを考えている。

委員 その場合児童の扱いはどうなるかと思ひ、児童館での児童クラブでもなく、児童館の事業でもないものに参加する場合、保険や保護者の同意はどうかと気になった。

説明者 もちろん、立町小学校の子ども達が恐らく主となる参加メンバーになると思っている。ただし、児童館関係なくみんなに声をかけて、その際に児童館として来年度は保険をかけたり、その辺のケアをしていこうと思っている。

委員 また、講師謝金の予算について、調査団に入っている大人メンバーの皆さんのバックグラウンドを少し教えていただきたい。

説明者 まず、声をかけようかと思っているのが、先ほども児童館の伝手をフルに使ってと申し上げたが、小学校のその学区内にいるもともとお世話になっている職人の皆さん

であったり、民生委員、地域ボランティアの皆さんであったり、児童館にボランティアに来てくれている学生等、実際まず顔の見えている大人の皆さんにお声掛けをして、組織を形作っていかうかと思っている。ワークショップの対象も、もちろん子ども達だけでなく、大人の皆さんも一緒になって、ノウハウを学ぶだけでなく横の繋がりも、地域の皆さんを講師にしたワークショップの中で深めていけたらいいなと思っている。

委員 実際には冊子を作る作業というのは、児童館の職員の方が全てやるのか。調査団に関わる大人の方の中で冊子まで、事業実施イベントとして実施するのか。外部の方はいないのか。

説明者 今のところ、まず確実に言えることは、執筆や編集等のプロフェッショナルな方がいないため、まず私達でそれを勉強し、形を作っていこうというところからスタートしている。調べたところ、立町地区には色々なまちの魅力を取材しているお店の方がいたり、撮影を教えてくださいフラットというところがあったり、そういった皆さんのプロフェッショナルな技を少し伝授していただき、実際の執筆や編集は調査団のみんなで作っていこうと思っている。

委員 それは子ども達がやるのか。

説明者 子どももやります。

委員 大人の皆さん、調査団に参加するこの名簿に載っている大人の皆さんで実施すると。

説明者 名簿も、未だ児童館の私達の名前しか書いておらず、これから4月以降に声掛けをして、どんどん増えていく予定でいる。

委員 講師謝金は、先ほどの関連性のある地域の方をお願いをして、講師で来てもらって教えてもらうだけではなく、実際の作業も含めての値段ということか。

説明者 その通りである。1年間かけてアドバイザーというか、恐らくそのワークショップだけで私達ができるようになるのは少し難しいと思うため、ワークショップ以外にも随時、年間を通してサポートしていただく予定である。

委員 1つ確認だが、アウトプットとしてできるガイドマップの小冊子についてだが、これはどの辺りに配布するのか。申請書には町内外としか書いていない。

説明者 一応、立町、大町地区を中心に配布を考えている。きっと活動していく中で色々な団体と繋がり、近くの駅の駅員さん等とも繋がりがあったりするため、そういった公的な場所等にも置かせていただきたいと思っている。

委員 大町西公園近くは、置いてもらうとすごく広がるのでないかと思ったりもする。もう1つ、冊子2,000部ということだが、それだと手に取る人達の数に限られてしまうため、何か他にネットでオープンにする等、そういう予定はあるか。

説明者 特にそういったことは考えていなかった。ネット上での開示というか、皆さんが手に取り見ることができるような仕組みは少し考えなければいけないと、今思ったところである。

委員 例えばPDFにして、どこか児童館なりのホームページに置いておく等、そういったことがあれば、より多くの人達に魅力が伝わるのかなと思った。

委員 申請書類の中で少し確認だが、調査団は一応立町という名称だが、エリアとしては大町も含むエリアか。次は、大町調査団ができるみたいなことか。

説明者 今の時点で、正直なこの名前の由来を申し上げますと、児童館の中でこういうことができたらしそうということが始まりのため、私達のいる立町という名前がついている。ただ、実際に調査団を立ち上げ、名前をみんなで改めて考えて、付けることができたらしいなと思っている。申請時には立町子ども調査団だが、実際は少く変わる可能性もあると考えている。エリアは立町、大町の2地区で考えている。

委員 基本は立町小学校の学区エリアを対象ということで理解した。事業の名称と申請団体名の変更等については、事務局と確認いただければと思う。もう1点、事業の概要のところに、記録映像を上映するとあるが、それが小冊子のお披露目を兼ねて云々とあったため、これは何かメイキングの様子みたいなそういうイメージの映像か。

説明者 実際の取材イメージとしては、本当にテレビのレポーターがいて、紹介したり、少しお話、対談をしたりみたいなものを子ども達が行うことを想定している。あとは、ワークショップの内容やメイキングに近いものにはなると思うが、こんな様子で調査団をやっているため、ぜひ皆さん一緒にやりませんかというような、広報も兼ねていきたい。

委員 作りながらそのプロセスを切り取って、仲間づくりや進行状況を少し発信していく、最後に全体でこういうような経過があってこの写真出来ましたというような、そういったイメージで、その途中に、ご指導いただく方の関わりもあると理解した。

#### ④セカハピ団 仙台青葉本部

委員 子育てのお母さん達のためにわくわくするようなイベントを企画されたということですごく良い取り組みと思う。1つ質問だが、セカハピ団の皆さんの名簿を拝見すると、仙台青葉本部となっているが、今回のオンラインイベントではなかなか地域性を限定したり、参加する方の地域を問うことが難しいと思う。また講師の方も、とても魅力的な方々お1人10万円に来てくださるという素晴らしいことと思うが、そういったこともあって結構申し込みがたくさん来るのではないかと思う。オンラインということでいくと、青葉区で実施するという地域性が少し見えにくいと思ったが、参加する方の地域を限定したり、または参加する方についてのルールみたいなものはもう決めているか。また、もう1つ、オンライン事業だけでなく、オンサイト、野外での交流会も準備しているということだが、野外の交流会の場所や規模感も教えてほしい。会も準備しているということだが、野外の交流会の場所や規模感も教えてほしい。

説明者 まず、オンラインで地域性をどのように確保するかといったお話だが、広報する際に紙のツールを使い、青葉区内の保育所や幼稚園を中心に配布する予定である。SNS等での広報から外部の方が入ってくると思うが、やはり近隣の泉区や、仙台市内の方、そういった方々にはぜひ私達としては参加していただきたいと思っている。さらに、それ以外の方ももちろん参加可能性はあり、今回は予算で1,000アカウントまでと考えているため、可能な限りは受け入れたい。なぜかという、そうすることで青葉区、仙台の情報発信の場にもなると思っているからである。青葉区は頑張っていると発信することが、また、青葉区から世界の人達の応援にもなるのではないかと、それはすごく素晴らしい活動でないかと思っている。アカウントが上限に達して青葉区の方が参加

できないような状態は望ましくないため、そういった際には、抽選制或いは LINE で地域性を絞るということも機能としてはあるため、そういったことも登録者数の状況を見ながら考えていきたい。そして、屋外フェスについてだが、まだ確固とした場所は決めていないが、私達の地元が青葉区の錦ヶ丘で、広瀬文化センターのホールを中心にやっているが、ご協力いただける場所だと考えている。なるべく親御さんが、電車でも車でも来られるような場所が望ましいと思っている。ここは未定である。

委員 そうすると、開催場所については宮城地区はじめ青葉区内で検討しているのか。1,000 アカウントという話だが、配布するチラシについては、仙台市内限定のチラシ配布で、オンラインでの広報は様々なところに載せる予定か。

説明者 その通りである。私達自身も主に仙台で活動しているため、メディアもジモティー等、宮城、仙台を中心とした媒体と考えている。

委員 また、その LINE アカウントの使用料についてだが、来年度はこちらの予算を使うとして、その LINE に登録した皆さんについては次年度以降どんな扱いになるのか。

説明者 アカウントを今後の事業でどう使っていくかということで、助成金をいただけるのであれば継続開催をもちろんしていきたい。継続 3 年以後については自立した運営をしていきたいと思っているため、例えば、初期投資というか、今回助成金で 3 年間させていただくことで、しっかりとアカウントでユーザーができた暁にはその方達をもとに、例えば地域を応援してくださる企業の協賛金を得る、或いは参加費を 500 円程度いただく形でのイベント開催ということで引き続き、LINE を事業として継続していきたい。

委員 そうすると LINE に登録した皆さんは、協働提案事業で公益性があるということで登録するのか。3 年間終わった後に、皆さん自身が LINE を使って様々な広報や、有料のイベント等別の有料のものを発信するという可能性もあるのか。

説明者 正直、勉強不足で申し訳ないが、そういった事業の継続が可能であればそうさせていただく。ただ、今回は助成事業ということでリストを引き継ぐことが難しい場合は、一旦解散する。

委員 目的としては、こちらの事業実施のための LINE アカウントの取得ということで理解した。

委員 子育てママの支援というのは、色々な地区でとても重要なことで、特に錦ヶ丘みたいな新興地区では横の繋がりが少ないということで、そういう横の繋がりを作っていくということは大変重要なことと思う。オンラインイベントを実施することについて、大体 1 回あたりどのぐらいの参加者の規模を想定しているか。

説明者 規模の想定は、こちらの活動スケジュールの備考に書かせていただいた。広報に合わせて LINE の登録者数を増やすということが参加者数の目安になるため、5 月からスタートということで順次、毎月 100 を目標に掲げている。最終的には年間で 1,000 を目標にと思っている。ともえオンラインスクールは私も、出演或いは裏方でお手伝いを仕事としてさせていただいた経験があり、先日、オンラインフェスという形で平日行ったのだが、大体 100 アカウントでの開催であった。こちらは休日開催となるため、もっと登録数は多いところからスタートできるのではと思っている。



委員 登録者が全員参加するというのもなかなか難しいと思う。マックスで100という計算でよろしいか。そうすると、最後の会には1,000人参加する可能性もあるということか。

説明者 その通りである。予算について、Zoomアカウントは登録者に応じて契約しようと考えている。1,000人までが1回、ひと月あたり5,000円でのアカウントになるため、マックスで1,000人を想定し、4回分、2万円を予算に入れている。最初の月はそのままではないと思うため、より低いアカウントで済むのではないかと考えている。

委員 1,000人が同時に参加するZoomの会議はどうなるのか、あまり想像がつかないため、大変かもしれないが、ぜひ頑張ってくださいと思う。

委員 これまでにも350名位の規模でイベント実績もあるということだが、それは今回の団体ということではなく、団長主催の事業としてか。

説明者 ママさん達がグループで、しっかりと組織として動くことはなかなか難しいという事情があり、表立って名前を出すのは私でさせていただき、個人で、すべてこの3回の講演、市と教育委員会の後援をいただき事業を行った。今回の名簿のメンバーも、半分以上は毎回お手伝いいただいているメンバーである。今回助成金をいただくという申請に合わせて、団体として名簿を作った。

委員 仙台青葉本部ということは、支部や、将来的には地域に同じようなミッションのチームというか、皆さんの間で生まれるといいなという願いもあってのことか。

説明者 その通りである。セカハピという言葉は少し怪しく響くかもしれないが、世界のハッピーでセカオワならぬセカハピというコンセプトである。仙台青葉本部以外は今のところない。

委員 また、今回一応協賛金で、12万円計上されているが、ここにある企業は、これまでも協賛の応援をしてくださった方々という理解でよろしいか。

説明者 その通りである。資料として提出した前回までのコンサートで、宮城生協や県民共済、或いはパナソニックホーム等地元の企業が応援してくださっているため、まずはその企業にこちらの事業説明、また、新たな会社にも説明していくつもりである。

委員 大体これまでも同規模ぐらいのご予算でやっていたのか。

説明者 入場料についてはほとんど無料或いは500円ということで行っていたため、運営費はほぼ賄い、お母さん達の出店もいただいていたため、3,000円の出店料を例えば20組集める等、そういった形で企業半分、個人の出店者半分という目標でやってきた。

委員 今回リアルでない部分、その出店がないということもあって、オンラインでも講座やフォーラム等、有料でというのも大分増えてきていると思うが、そのあたり今回は考えていないか。

説明者 今は、有料でやるということ自体、なかなか子育てイベントでは難しいという現状である。一緒に青葉区がこの企画を面白いと思ってやっていただけたら、本当に嬉しいのだが、スペシャルなゲストをお招きすることで、まずはご登録いただくことができる。そして、本当にいい会を提供させていただき、登録者さんに満足いただけたら次年度以降、少しずつ有料のイベントもと考えている。

委員 お答えできる範囲で結構であるが、スペシャルゲストは本当にスペシャルだと思っ

ている。このスペシャルゲストについて、どのような形で交渉しているのか、また団の中で LINE の中にパイプがある人がいるのか、それともご自身がやるのかというような交渉という部分と、今、第 3 回、第 4 回で、第 3 回はサンドウィッチマンさんや第 4 回は尾木ママさんという交渉候補とあるが、OK をもらえる可能性、またはこれを進めていくという計画でやっているのかどうか聞かせてほしい。

説明者 まず、第 1 回、第 2 回は内諾をいただいている、これは私個人のこれまでの活動の接続で直接本人とやりとりさせていただき、内諾をいただいた。もちろんオンラインでできる範囲となるため、先方のアーティストも今回一緒にチャレンジという形にはなるが、ぜひ元気を届けたいと言ってくれている。また、第 3 回のおうちで爆笑ライブという企画についてだが、これは正直まだ交渉は始まっていない。地元で青葉区応援のテレビ番組をされているかの・おがさん等、そういったところもあるため、窓口を通じて私が直接交渉しようと思っている。サンドウィッチマンさんもこれまで協賛いただいた会社の方で、支援事業と震災復興イベント等担当者との繋がりがあつたため、もしお話ができたというわずかな希望だが、地元の接続のある方を通じて、メッセージを送りたいと思っている。第 4 回については、尾木ママさん里田まいさん、ちょうど楽天イーグルスに来られるということで、正直接続はないが、地元のママ達も興味のあることかと思つてのことである。また、もう 1 人、元 SMAP 木村拓哉さんのお母様の木村まさ子様は子育てあるいは食育の講演家として有名な方だが、こちらは団員のメンバーが接続を持っていて、すでに 1 回講演会をしているメンバーもいる。その方も候補には入れている。第 3 回、第 4 回はこれからになってしまうが、この方に当たってみると良い等ご助言いただける際には、私もやってみるといふ気持ちである。

委員 ぜひ頑張つてほしい。

#### (4) 令和 3 年度まちづくり活動助成申込事業の評価及び選考

##### ① 栗生の民俗をたずねる会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・ 広報について、会の集まりや活動、完成品の存在を広く地域内外の住民に発信できるよう期待したい。
- ・ 会員を増やすことや、完成品の販売等収入を増やす方策を検討してほしい。

(ウ) 助成額について

- ・ 助成額を 35 万円とすることが妥当である。

##### ② 白沢カルデラプロジェクト実行委員会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・ 事業スケジュールについて、初年度は、どのような内容の探訪・調査を実施するか、活動への賛同者を増やす工夫等の検討段階であると判断する。助成額の範囲内で実

施できる事業について、貴団体内で検討してほしい。

- ・広報について、チラシの配布先に大学を含める等、研究している方や興味のある方に広く活動の魅力を発信できるよう期待したい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 20 万円とすることが妥当である。その際、安全対策の強化等を踏まえ、事業計画、予算について改めて検討してもらうこととする。

### ③仙台市立町マイスクール児童館

(ア) 協議結果：助成事業として採択しない。

(イ) 評価委員からの意見

幅広い世代の地域の方が、子ども達の視点を活かして取り組む活動である点は評価できるが、児童館事業との違いや事業責任の所在の明確化等運営体制の構築が十分ではないと判断する。

### ④セカハピ団 仙台青葉本部

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・講師謝礼について、毎回スペシャルゲストを招くと、費用負担も大きいため、回数を減らす、ゲストを見直す等検討してほしい。
- ・イベントの開催ごとに成果の取りまとめを行う等、次年度に繋がる活動となることに期待したい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 40 万円とすることが妥当である。

## 4 閉会